

# 令和3年度 学校経営計画・学校評価

☑4月5日提出 □10月15日提出 □3月15日提出

学校番号	6	高知県立安芸桜ヶ丘高等学校	課程	全
------	---	---------------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
目指すべき姿	①生徒の未来への夢をはぐむとともに、夢の実現を支援する学校 ②基礎学力とともに工業・商業の専門力をしっかり身に付ける学校 ③地域や社会を支え、その発展に寄与する人材を育成する学校 ④地域に根差し地域の課題を共有し、地域とともに歩むことができる学校 ⑤高い防災意識を持つとともに、安全で安心して学べる学校 ⑥チーム学校として、教職員が結束して課題解決に取り組む学校	目指すべき姿を実現するための取組等	①様々な機会を活用し、将来への夢を持たせるとともに、それを明確な目標へと変換させ、実現に必要な知識やスキルを習得させる ②基礎学力の重要性を理解させ、主体的に学ぶ意欲と態度を育てる ③専門科目の実践の場を校内外に求め、実践とおした専門教育により、高い専門性とともに、しっかりと職業観・勤労観を身に付ける ④校内外での様々な活動とおして、社会性や協調性を身に付けるとともにコミュニケーション能力の向上をはかる ⑤地域貢献活動等とおして、郷土に対する自信と誇りを持たせるとともに、これを自己有用感や自己肯定感につなげる ⑥チーム学校として各学科、校務分掌、学年団で、きめ細やかな情報共有と連携を図り、学校経営計画を常に意識し共有する
学校像	①自らの将来をしっかりと見据え、自己実現に向けて邁進する生徒 ②将来のスペシャリストを目指し、意欲をもって工業・商業の専門を学ぶ生徒 ③校内外での様々な活動とおして、社会性や協調性を身に付けた生徒 ④郷土に対する自信と誇りを持ち、地域や日本の未来を切り拓く高い志を持った生徒 ⑤高い自己肯定感とともに、他者を思いやる心豊かな生徒		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 】
【社会性の育成】	評価 【 】
【チーム学校】	評価 【 】

## 《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	①授業が理解できている生徒の割合(アンケート肯定回答80%以上) ※R2年度61% ②家庭学習実施生徒の割合(アンケート肯定回答85%以上) ※R2年度83% ③学力定着把握検査におけるD3層の割合(英数国総合で10%以内) ※R2年度 3年36.7% 2年21.1% 1年13.6%	○校内学習塾「校塾」への参加生徒の拡充 ○専門資格取得への取組の推進 ○学習支援事業の活用 ○宿題・週末課題等による授業外学習時間の確保 ○課題探究及び課題解決能力を育成 ○欠席が多い生徒へのカウンセリング				
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	①相手の気持ちを考えながら、自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝えることができる生徒の割合(アンケート肯定回答75%以上) ※R2年度51% ②将来の夢や目標を持っている生徒の割合(アンケート肯定回答75%以上) ※R2年度64% ③皆勤・精勤者の割合(40%以上) ※R2年度40%	○オリエンテーションの実施 ○交通マナー講習会の実施 ○挨拶運動の実施 ○学校行事(遠足・文化祭他) ○キャリアノートを活用 ○職場体験学習(インターンシップ他) ○企業・学校見学 ○地域協働型学習				

## 《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組を通じた、創意工夫を生かした特色ある教育活動の展開	①授業では、学習のねらいが示されている(アンケート肯定回答90%以上) ※R2年度86% ②授業では学習活動を自ら振り返る場面を設定している(アンケート肯定回答80%以上) ※R2年度61% ③授業では、自ら考えまとめたり発表したりする機会がある(アンケート肯定回答80%以上) ※R2年度73%	○管理職による授業の参観(不定期) ○公開授業の実施(年2回) ○授業改善のためのICT活用公開授業等の実施				
生徒理解 生徒支援	○多様な生徒へのきめ細かな支援を実現するため、全教職員が一致した認識の下で対処できる体制づくりと、いじめの未然防止	①生徒サポート体制は適切に機能している(アンケート肯定回答80%以上) ※R2年度73% ②本校の生徒指導は適切に行われている(アンケート肯定回答80%以上) ※R2年度80% ③悩みやなど気軽に先生に相談できる(アンケート肯定回答80%以上) ※R2年度52%	○生徒支援に関する校内研修の実施(年3回) ○定例生徒支援委員会の実施(年7回)				
学校の振興	○基礎学力の定着と進路保障 ○東部地域の活性化への寄与と学校の魅力化	①3年生3月末時点の進路決定率(100%) ※R2年度100% ②各種競技会・コンペ等への参加、地域活性化活動 ※R2年度 実績あり ③入学者数(充足率各科50%以上) ※R2年度 A日程31.7% ④中学校教員向け説明会の実施(3校以上) ※R2年度 実施なし	○校内学習塾における学習支援員の活用 ○学校の強みや学科改編後の新たな学校の魅力を学校訪問やHP公開により情報発信 ○行政・民間企業と連携した学校PR ○ボランティア活動の推進				
働き方改革	○教員が日々の生活の質や教職人生を豊かにすることによる効果的な教育活動の実践	①教職員一人ひとりが協力し合って、学校運営にあたる(アンケート肯定回答80%以上) ※R2年度74% ②時間外勤務時間(80時間/月超に該当する教職員数0名) ※R2年度0件 ③ハラスメント発件数(0件) ※R2年度0件	○業務記録票による勤務時間の確認 ○管理職による個別面談、勤務時間外状況確認 ○ゼロ残業日(週1日)の設定				
産業教育の充実	○生徒の資質・能力の育成 ○教員の指導力向上 ○関係機関との連携 ○専門高校(学科)の魅力化	①専門資格試験の合格率(65%以上) ※R2年度61% ②ICTを積極的に活用する専門教員の割合(100%) ※R2年度70%	○専門性の高い検定試験対策補習 ○外部講師の招へい ○小中学校出前教室の実施 ○専門教科における地域課題解決の探究 ○情報機器を活用した公開授業の実施				